

横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果総括表（保育分野）

事業所名	マミーズエンジェル金沢文庫駅前保育園	
報告書作成日	平成30年3月14日	（結果に要した期間 8ヶ月）
評価機関	株式会社 学研データサービス	

評価方法

自己評価 (実施期間:平成29年 7月 6日～平成29年 12月 15日)	全職員が参加し、0～2歳児のクラス、3～5歳児のクラス、調理室の3グループごとにまとめたものを施設長、主任がとりまとめて作成
評価調査員による評価 (実施日:平成30年 1月 23日、平成30年 1月 24日)	①第1日目 ガイダンス、施設見学、保育観察、事業者（職員）ヒアリング（施設長、主任保育士、栄養士、看護師）、書類確認 ②第2日目 事業者（職員）ヒアリング（施設長、主任保育士）、保育観察、書類確認
利用者家族アンケート (実施期間:平成29年 10月 30日～平成29年 11月 13日)	送付方法・・・園を通して保護者へ配付 回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送
利用者本人調査 (実施日:平成30年 1月 23日、平成30年 1月 24日)	第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

総評(評価結果についての講評)

施設の特徴、施設のよい点・改善すべき点などの総括

*施設の理念を踏まえながら、施設全体としての特徴を総合的に示すとともに、特によいと思われる点、または、より質の高いサービスの提供のために、工夫すべき点・改善点などについての総括を以下にご報告いたします。

《施設の概要》

園は株式会社マミーズエンジェルの神奈川県初の系列保育園として平成25年4月1日に開設し、5年目を迎えました。京浜急行金沢文庫駅から徒歩3分の3階建てビルで、定員は60名、平成29年12月現在65名が在籍しています。産休明け保育、延長保育、障がい児保育を実施しています。京浜急行特急の停車駅で駅から至近のため通勤には非常に便利です。隣のビルとの間に広くはありませんが園庭があります。園の近くには両岸が桜並木の遊歩道のある川が流れ、大きな公園がいくつもあり、子どもたちの散歩先はたくさんあります。こうした環境の中で子どもたちは伸び伸びと過ごしています。

《特に優れている点・力を入れている点》

○園独自の教育プログラムを通じて、子どもたち一人一人の可能性を引き出す保育を実施しています

園の特徴として、独自の教育プログラムと独自のサービスを実施しています。朝園に入ると聞こえてくるクラシック音楽、ダンスや歌、絵などの遊びを通じて英語に親しむインターナショナル保育、体育指導、日本初のゴルフアカデミーは、法人の運営の基本方針に沿って生まれ、子どもたちの可能性を引き出すように、一つの取り組みからさまざまな方向へアプローチが取られています。例えば、2歳児からのゴルフは技術の向上だけではなくマナーを身につけ、そしてゴルフというスポーツが親子3代でも楽しめることから、人との絆を築くきっかけを作っています。同じプログラムの中でも、一人一人の受け入れやすい部分を育て、さらに弱点を克服して自信を持てるようにしています。専任講師の指導を通じて、子どもたちの心身の発達と可能性を引き出せるような取り組みが実施されています。

○保育室のほか階段壁に、季節のテーマのもとクラスごとの子どもの作品を飾り、別世界を演出しています

訪問時、階段の壁面には、白や銀や金のテープや色紙を使って雪の世界を表現し、その中に、子どもが自分たちの能力に合わせて作った同じ高さの自分の姿の色紙の人形を、雪の中で遊んでいるようにアレンジして展示してあります。例えば人形の髪の毛は、2歳児は紙をちぎって貼り、4、5歳児は毛糸を貼り付けたり、できる子どもは毛糸で三つ編みを作って貼り付けるなど、年齢ごとの能力に応じた作り方で作品を作っています。ユニークなのは「冬」という一つのテーマのもと、クラスごとに力を合わせ参加していることです。こうした作品展示は季節や行事に合わせて、七夕やクリスマスなどでも楽しんでいるそうです。各保育室内の作品も立派でしたが、園全体で統一したテーマですてきな別世界を演出するというのは、企画力と保育士間の協力の賜物です。

○指導計画や自己評価などを通じ、職員と園、法人本部が一体となって、心の通う人材育成に努めています

職員は年度初めに年間目標を定め、「育成計画 自己評価」に目標、課題、対策を記入して取り組み、4～6月、7～10月、11～3月の期ごとに「自己評価」を、成果、反省、課題、総評の順で文章で作成します。これを基に乳児クラス、幼児クラス、栄養士(調理室)、園全体のグループごとに、期ごとの「自己評価」も作成して、主任と施設長が評価、面談、指導を行っています。さらにこれを法人本部に送り、毎期社長が一人一人の自己評価に職員の個性を尊重したコメントを付記し、期ごとに行う社員総会で総括を行い、賞与につなげる仕組みがあります。社長が一人一人にコメントを付すことで、職員も意欲を持ち、自身の実践の改善につなげています。また、日常業務でも主任は日誌や週案、月指導計画などに赤ペンで助言、指導、励ましのコメントを記入し、職員の育成に努めています。

《今後の取り組みに期待したい点》

●保護者への情報伝達やコミュニケーションの取り方について、再度検討されることを期待します

利用者調査の回収率は58.9%でしたが、保護者の保育に対する満足度は、満足とほぼ満足で100%となっています。園で実施しているインターナショナル保育や長時間保育も評価されています。毎日の朝と昼のミーティングでは全職員で情報共有し、子ども一人一人に向き合う保育を行っています。保護者代表と運営委員会で話し合うほか、保護者の個人面談を随時受け付けるなど、いつでも要望に応じる開かれた体制を整えています。ただ、利用者調査では個人面談や保育参観、保育参加を求める声があり、一部の保護者には十分情報が届いていないことがうかがえます。実際には、いずれも申し出により随時受け入れていきますので、今後は保護者との双方向コミュニケーションの取り方を検討するなどして、正しい情報がより確実に周知されることを期待します。

●保育目標の達成に向け、子どもたちとの交流を通して、より地域に親しまれる園となることを期待します

園の保育目標の一つに「地域での活動を通して、気持ちの良い挨拶やかかわりの中できずなを深め、地域に愛される保育園を築いていく」とあります。園は、園庭が狭く園庭開放ができないため、金沢区主催の、地域の公園などで実施される「地域の遊び場」や「商業施設における子育て支援イベント」に積極的に参加し、地域の親子と一緒に遊んだり、育児相談などを受け付けています。園は開設5年目となり、少子化など近い将来の対策としても地域での園の存在価値を上げていく必要があります。勤労感謝の日になんで、地域で世話になっている方々に子どもの作った感謝状を届けているように、しばらく途絶えている小中高のボランティア受け入れや、高齢者施設の訪問、地域行事への参加などを積極的に行い、より地域に親しまれる園となることを期待します。

《事業者が課題としている点》

さらなる地域との交流を課題としています。福祉施設との交流を図り、日常の保育で行っている歌や体操などを施設で披露したり、昔の遊びをともに行うなどの交流ができる施設を検討しています。また、他園との交流や幼稚園や小学校との連携をさらに深めることも課題としています。現在も幼保小の交流を行っていますが、無理のない中で交流の回数を増やし、より交流を深めたいと考えています。保育の質の向上を目指して業務マニュアルのさらなる改善を現在進めています。

評価領域Ⅰ 利用者(子ども本人)の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



園の保育理念5項目のうち第一に「日本の宝であるお子様の生命と人格を第一とした保育と保育環境を実現すること」とあります。理念や基本方針は明文化され、ホームページや重要事項説明書などに掲載し、園の玄関にも掲示しています。全職員は「社是」「マミーズエンジェルの想い」「私たちの理念」「保育指針」のカードを携帯し、毎日のミーティングで唱和しています。年3回開かれる社員総会では社長の訓話を聞き、理念と方針を確認するとともに、どのような保育を行えば子どもたちの最善の利益が実現されるのかを考えています。園では一人一人の子どもと向かい合い、信頼関係を築き、子どもたちの目線に合わせた保育を行っています。

保育課程は「マミーズエンジェルの社是」を基に、系列園15園で同じ5つの理念を掲げています。保育方針は社是から展開した5本の柱で構成されています。開園してから4年間かけて全職員で保育課程について話し合い、地域性を加味した園独自の保育目標を設定して、園だよりも掲載しています。この地域は比較的核家族が多く、園は京浜急行の特急の停車駅に至近の通勤には非常に恵まれた環境にあり、保育時間は7時半から18時半の利用者が大半を占めます。保育課程は重要事項説明書に記載するとともに、入園前の説明会で保護者に説明しています。改定する際には園だよりもに掲載し、運営委員会でも説明しています。

保育課程に基づいて年齢ごとに作成した年間指導計画があり、発達課題に合わせたねらいに従って月指導計画、週案を作成しています。園では「自分でやろうとする子ども」「自分で考えようとする子ども」を育てたいと考えています。子どもの意見や意思を尊重するために、理解できる子どもには子ども同士でのディスカッションをさせています。ディスカッションによって出た意見はそのまま受け止めるようにしています。年齢が小さな子どもにはホワイトボードや絵カードを使って説明します。職員は子どもの意見や意思を指導計画の中に盛り込み、子どもの表情やしぐさから子どもが何を要求しているかを受け止め、一人一人の子どもと向き合っています。

評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



入園前の説明会で渡した「児童票」「入園面談調査書」などの事前準備書類をもとに、個人面談をしています。面談の際には、保護者が記入した面談調査書に、短縮保育の期間や保育時間、土曜保育の有無、保護者や家庭の状況などを職員が確認しながら追記していきます。「マミーズエンジェル教育プログラム」という園独自の教育プログラムについても内容を説明します。面談には必要に応じて栄養士も同席し「入園前食事調査票」を見ながら子どもの様子を観察します。面談の記録は施設長と主任が確認した後、担当職員と打ち合わせを行い、一人一人の子どもたちの生活のリズムに、無理なく入園後の保育活動を合わせていけるように配慮しています。

入園前の説明会で短縮保育の説明を行い、個別に面談しています。短縮保育の期間はおおむね5日間としていますが、1か月程度かかる子どももいます。短縮保育の期間をあまり取れない保護者には、十分に重要性を説明したうえで柔軟に対応しています。0、1歳児の保育担当者は決まっており、主任が勤務シフトを調整しています。子どもたちの生活が家庭と園で無理なく引き継がれるよう、すべての子どもに連絡帳があります。2歳児までの子どもたちの連絡帳は毎日生活の様子を細かく記録しています。担当職員が進級時に変更になっても子どもたちの気持ちが不安定にならないように、児童票の読み合わせを中心とした引き継ぎを行い、ミーティングでも周知しています。

年間指導計画、月指導計画、週案があり、クラスの職員が話し合って作成した振り返りを基に、主任を中心に保育の活動や子どもの姿について話し合い、それぞれの計画に対する評価と見直しを行っています。昼のミーティングでは毎日、「マミーズエンジェルの想い」「社是」「私たちの理念」「保育指針」を唱和しています。振り返りは週ごと、月ごと、期ごとに行い、現在の保育の状況や一人一人の子どもたちの発達について検討します。指導計画を評価し改定する際は、送迎の際に保護者と話し合ったり、連絡帳で現在の状況や今後の指導について報告したりしています。

評価分類 I - 3 快適な施設環境の確保



保育園の屋内や周囲は清潔に保たれています。保育室内には温湿度計や空気清浄機、エアコンが設置されています。清掃のローテーション表があり、担当職員が園の内外を清掃しています。「3歳児未満の保健・衛生について」というマニュアルに、保育室、廊下、おもちゃについての衛生管理方法を記載しています。おもちゃは毎日、エアコンなどは週末に清掃を行っています。保育室内は24時間換気を行うとともに、午睡後は窓を開けて換気します。保育活動の際には採光が十分となるように配慮しています。備品は壁際に整理され、掲示物は保育室と階段の側面、多目的に利用できる部屋に掲示しています。昼食と午睡の時はクラシック音楽を適度な音量で流しています。

0歳児の部屋に沐浴設備があり、夏季はほぼ毎日使用しています。連絡帳には、夏季は沐浴について、冬季は散歩について記録し保護者に伝えています。2階にはシャワー室、園庭にも温水シャワーがあり、水遊びや外遊びを楽しんだ後、シャワーを利用しています。プールは園庭に設置し、シャワーシートで遮へいして、外部から見えないように配慮しています。おむつかぶれ対策としては、沐浴をまめに行うこと、保護者におしり拭きを持参してもらうことで対処していますが、医者からの指示に基づいた薬を塗布することもあります。沐浴設備と温水シャワーは「環境衛生と消毒」マニュアルを基に管理し、職員が清掃を行った後チェック表に記入しています。

0～2歳児は保育室にジョイントマットを敷いて空間を仕切り、コーナー保育を行っています。机の周りに集まって少人数で好きな友達と遊ぶこともあります。食事をした後は職員が拭き掃除をして清潔にした後、1歳児と2歳児は1歳児の部屋で、3～5歳児は3、4歳児の部屋で一緒に午睡します。0歳児は布団、1歳児以上の子どもはコット(簡易ベッド)の上にタオルまたはブランケットを敷いています。異年齢交流は朝は7時から9時、夕方は16時から1歳児の保育室で行っていますが、給食やおやつを食べる際にも3歳児以上は異年齢のグループになり、交流しています。5歳児は年下の子どもたちの世話をしたり、手本となったりしています。

評価分類 I - 4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



3歳児未満は個別指導計画を作成しています。養護、教育、食育、安全などの共通項目別に個人目標があり、ねらいと先月の様子を記載し、計画を実施した後の子どもの心身の状況を記入して指導内容を評価しています。特別な課題がある子どもには個別観察記録を作成し、課題に合わせたねらいを設け、子どもの様子、家庭との連携、専門機関との相談内容、今後の援助を記載しています。実施した週案を振り返るミーティングでは、子どもの発達をとらえて、目的に対する計画が妥当であったかどうかを評価し、変更や見直しを行っています。見直しや変更をした計画は保護者に説明し、理解してもらったうえで同意を得ています。

「卒園児就学先一覧表」があり、入学予定の小学校の校長や教諭と、園の施設長やクラス担当職員が連携しています。打ち合わせを行った後で、必要に応じて教諭が園を訪問して子どもの様子を観察することもあります。児童票や発達経過記録、医師診断記録などに子どもの家庭の状況や成長の様子を定期的に記載しています。記録は全職員で共有できるようになっています。進級時には児童票や児童健康診断記録を基に定例の職員会議を行っています。日ごろの保育でも異年齢交流に力を入れているため、職員はほかのクラスの子どもの情報も把握しています。進級時に引き継いだ内容は、進級後次の月に振り返りを行って、円滑に行われたかどうかを確認しています。

評価分類 I - 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



配慮を必要とする子どもを積極的に受け入れています。日々の子どもの様子については、昼のミーティングで話し合い、一人一人の子どもの様子や家庭の状況を全職員が把握しています。また、週1回の定例職員会議では配慮を必要とする子どもへの対応を話し合い、個別に記録を作成します。記録は個別にファイルして、施錠できるキャビネットで保管しています。常に施錠していますが、担当の職員は必要に応じて子どもの記録を閲覧することができます。発達障がいや要支援、インクルージョン(統合)保育など、配慮を必要とする子どもに関する外部研修を受けた職員は、受講1週間以内に園内研修で発表し、最新情報を職員間で学習しています。

園は鉄筋コンクリート造りの3階建てでエレベーターが設置され、障がい児保育のための環境は整っています。金沢区こども家庭支援課や地域の医療施設、横浜市南部地域療育センターとの連携体制が整っており、保護者の同意を得たうえで、相談したり情報を得たりしています。担当職員は支援を必要とする子ども一人一人に合わせた個別指導計画を作成し、障がいの特性に合わせて外部研修を受けています。受けた外部研修の研修記録と資料を基に、園内研修で発表し、職員間で共有を図っています。子どもの人数が65人でほかのクラスにも目が行き届く状況であり、日々の保育の中で、職員の介助のもとに、障がいのある子どもをほかの子どもが自然に助け、一緒に楽しく過ごしています。

「幼児虐待(防止)マニュアル」があり、虐待が重大な人権侵害であることを全職員に周知するとともに、防止に取り組んでいます。子どもが登園した際には、子どもだけでなく保護者の様子にも注意しています。保育園での振る舞いや言動に気になることがあった場合には、登降園申し送り表に記録し、ミーティングで情報共有します。虐待が疑わしい場合には必要に応じて写真や記録をとり、金沢区福祉保健センターに相談したり、横浜市南部児童相談所や金沢区こども家庭支援課と連携したりしています。クラス担当の職員は保護者の気持ちに寄り添い、どのような援助が必要なのかを施設長や職員とともに話し合い、保護者の気持ちに配慮した支援を行っています。

入園前の説明会でアレルギーがあるかどうかを確認し、除去が必要な子どもに関しては個別に面談を行っています。かかりつけ医による生活管理指導表の提出を受けたくて献立表を作成し、除去食を提供しています。保護者には前月の末に、個別に除去食材を記入した献立表を渡して確認し合い、署名をもらっています。担当の職員は、連絡帳で保護者と病院とのやり取りを確認し、許可が下りた場合の食事について書き込んでもらっています。除去食は担当の職員が配膳を行い、専用トレイには子どもの名前と除去食材、アレルギー物質を記載しています。配膳する場合にはクラスにいる職員に声をかけたうえで、全員で確認してから除去食用のテーブルに配膳しています。

外国籍の子どもを受け入れる際に、子どもが日本語を理解できなければ、職員が絵カードを用意し、視覚に訴えることによって子どもの日常生活に支障が出ないようにしています。また、園でその国の様子が書かれた本や辞書を購入して保育室に置き、言葉がわからない場合は調べ、職員は日常会話でその国の単語を使って子どもとコミュニケーションを取ることもあります。今後は地域に外国籍の子どもが増えていくことを想定し、金沢区こども家庭支援課と連携して、通訳ボランティアを依頼することを検討しています。

評価分類 I - 6 苦情解決体制



重要事項説明書の中の「ご相談(苦情等)窓口、解決の仕組み」に、園や法人本部、第三者委員など4つの受付窓口を設けていることを明記しています。この仕組みは、保護者には入園説明会の際に重要事項説明書を使い説明し、園の玄関にも掲示しています。また、すべての苦情に施設長が直接対処し、結果を法人本部に報告しています。保護者の意見や要望は懇談会や行事後のアンケート、年に2回開く運営委員会などから収集し、把握に努めています。自分から意見を言うことが難しい保護者には、子どもの送迎時などに話しかけたりして信頼関係を築き、保護者が話しやすい雰囲気作りを心がけています。また、4つの窓口以外にも、横浜市福祉調整委員会などの権利擁護機関の苦情解決窓口も案内し、玄関の掲示に載せています。

苦情受付の手順や注意すべき点が明確に示されているマニュアルがあり、解決策の検討にあたっては第三者委員を交えて対応する仕組みができあがっています。第三者委員は法人本部が決定したうえで業務を委託しています。また必要に応じて横浜市福祉調整委員会や、かながわ福祉サービス運営適正化委員会とも連携できるようになっています。発生した苦情は迅速に施設長や主任に報告されます。苦情の内容と対処の経緯は担当者が苦情解決記録に記入し、全職員がミーティングで情報を共有しています。ミーティングでは具体的な解決策や今後の対応の仕方について話し合っています。過去の苦情は時系列に蓄積し、行った改善策を書いて整理しています。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ-1 保育内容【遊び】



年齢に見合ったおもちゃや絵本が用意されています。例えば0歳児には指先の訓練になるものや、動物の鳴き声など音の出る絵本、1歳児には文字の書かれた板や柔らかいボール、2歳児には人形やパズル、3～5歳児には子ども同士協力して遊べるようなブロックやゲームを用意し、その年齢の子どもの興味や発達に合わせたものをそろえています。おもちゃ類は透明の箱に入れて棚に置き、おもちゃの名前を書いたシールを貼って、子どもが自分たちで取り出しやすく、また片付けやすくなっています。登園後、各クラスで集まるまでの間や、一斉活動が終わった午後の時間、活動の合間は自由に遊べる時間となっています。

「大きくなった会」の中で5歳児が発表した「ブレーメンの音楽隊」は、5歳児が日常の中で「ごめんなさいと、ありがとうと言えるようになった」と発言したことから始まりました。シナリオに沿った劇の内容も子どもたちが考え、変更して発表しました。ほかのクラスも「劇ごっこ」に親しんでおり、職員が子どもの興味や「〇〇したい」という気持ちを尊重し、活動に取り入れ支援しています。ジョイントマットを使ってコーナーを作り、子どもたちは自分のしたい遊びを選択できます。また、2歳児はしっぽとりゲーム、3歳児は椅子取りゲーム、4歳児は大縄跳び、5歳児はドッジボールなどで、順番を待つことやルールがあることを伝えています。保育士は子どもの遊びが発展するような声かけをして、遊びの援助をしています。

夏にはミニトマトやピーマン、きゅうり、オクラなどを栽培しました。水やりをして生長を観察し絵を描いたり、収穫して給食で食べました。子どもたちは散歩で虫を見つけても園で飼育していません。それは、自分たちで育てることができるか話し合い、生き物の命を大切にするには自然の中にいたほうが良いと学習したからです。また、散歩中に拾ったどんぐりを園庭に植えて、芽が出るのを楽しみにしています。園では、1歳児は牛乳屋、2歳児は八百屋、3歳児は魚屋と肉屋、4、5歳児は消防署と警察署へ行き、地域で自分たちが世話になっている方たちに勤労感謝を表す手作りカードを渡して、地域と触れ合う機会を持っています。

2歳児から自分のお道具箱があり、年齢に応じて自分で管理する備品が増えていきます。訪問時、階段の壁面には、各年齢でできることを取り入れて、自分の姿を人形にした作品が壁に展示されていました。例えば作品の髪の毛は、2歳児は紙をちぎって作り、4、5歳は毛糸を貼り付けたり三つ編みを作るなど、年齢に応じた作品作りをしています。季節や行事に合わせて七夕やお月見、クリスマスなどの作品作りを楽しんでいます。空き箱やトイレットペーパーの芯などを自由に使い作品を作っています。リトミックでは音楽に合わせて体を動かしたり、朝の会では歌をうたったり、絵本を通じて絵や文字に興味を持てるように工夫して、子ども同士で遊びや話を展開できる環境を整えています。

子ども同士のけんかは、自分の気持ちを相手に伝えて話し合い解決できるように見守っています。しかし不適切な言葉を子どもが話した場合は、その言葉について子どもに話し、よいことや悪いことを考えるよう促しています。異年齢のかかわりとして、朝の会と帰りの会は全クラス合同で行い、食事は1、2歳児、3～5歳児と一緒に食べています。異年齢の保育を通じ、思いやりの気持ちや憧れ、頑張りの気持ちをはぐくんでいます。職員は子どもに対して否定的な言葉使いはしません。子どもの気持ちに寄り添い「〇〇だったのね」と受け止めています。言葉使いはミーティングでも話し合い、職員同士で気がついた時は指摘し、アドバイスをしています。

園の近隣には川があり、季節によっていろいろな魚を見ることができます。戸外遊びでは、たれつき帽子をかぶり、紫外線防止のために保護者の要望を聞いて長袖を着用することもあります。夏場の暑い時は夕方に散歩に出かけるなど、暑さ対策も考慮しています。散歩は連絡帳に保護者の了解のサインをもらって出かけています。訪問時は雪が前日に降り、子どもたちは園庭で雪遊びをしていました。2歳児からは外部から講師を招き、体育指導を受けて基礎体力の向上を目指しています。園では、はだし保育を実施し、雨天の時は園内でマットやフープなどを使ってサーキット遊びを楽しんでいます。体調のすぐれない子どもは健康状態に合わせて静かに過ごすように配慮しています。



園では、子どもたちの負担になるような食事の進め方はしていません。給食の時に少ししか食べられなかった子どもには、おやつを少し多めにするなど配慮し、保護者にも様子を伝えています。3～5歳児には、毎日栄養士が今日の給食の材料に含まれる三色の栄養について話しています。職員は子どもたちに食事のマナーや食器の配置なども伝えています。職員は子どもの食事の様子を見て「たくさん食べられたね」「上手だね」と褒め言葉をかけています。子どもたちは年齢に合わせて食器の片付けや準備をし、5歳児からは盛り付けと成長に合わせた取り組みをしています。0～2歳児は子どものペースに合わせて、声かけをしながら介助しています。

季節感が感じられるよう、春はアスパラガスやグリーンピース、夏はとうもろこしやオクラ、秋はきのこを提供するなど旬の食材を取り入れています。4月の行事食は星型に切った野菜がのったちらし寿司で見ても楽しめるように工夫しています。3月には卒園に向けて「心に残った給食」と題して、法人内すべての保育園のリクエストを集計して人気メニューを5歳児に提供しています。毎月クッキング保育を実施しています。1月は正月にちなんで白玉団子を作り季節や雰囲気味わえるように飾りつけをするなど配慮しています。食材は国産のものを使用し、食器は年齢に合わせて大きさや使いやすさを選び、高度強化磁器を使用しています。

園の栄養士が献立を立て、残食の様子などを「給食日常点検記録簿」に記載しています。また、栄養士は毎日各クラスを回り、子どもと食事について話をしたり、子どもたちの表情を見るなどして喫食状況を確認しています。献立は2週間サイクルになっています。栄養士は保育士とミーティングで、各クラスの子どもの喫食状況や、行事食、食育、調理の工夫について話し合っています。例えば残食の多かった献立は、次回、調理方法や大きさ、固さを変えるなどの工夫をしています。離乳食は保護者とも連携を取り、一人一人に合った食形態で提供しています。

月末に次月の献立表を保護者に配付しています。毎月給食だよりを発行して、園で取り組んでいる食育の様子や食に関するアドバイス、季節の食に関する情報を載せています。毎日玄関にサンプル食を展示し、どのようなものを園で食べているか、保護者に伝えています。また、アレルギーのある子どもの献立は個別に作成し、保護者に確認してもらっています。園で行われる夏祭りでは栄養士のブースを設けて、子どもたちが食べているおやつやお菓子を保護者に試食してもらい機会としています。このブースには、子どもたちに好評だったレシピを掲示しています。

午睡の前に落ち着いて眠りにつけるよう絵本の読み聞かせなどを行っています。午睡時はカーテンを閉め、クラシック音楽を優しく流すなどして、子どもたちが安心して休めるように配慮しています。眠れない子どもや眠くない子どもにも、体を休める時間であることを話しています。また、集団の中で寝ることができない子どもには、パーテーションを使ったりしてその子どもの空間を作るように配慮しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のために、0歳児は5分おき、1、2歳児は10分おきに呼吸や体勢のチェックを行っています。5歳児は就学に向けて午睡を徐々に少なくしていますが、体調や活動量を考慮して体を休める時間を作っています。5歳児は午睡がなくなると、3、4歳児の寝かしつけを手伝っています。

排泄は活動の前、食事の前、午睡の後など活動の節目に誘っています。子どもを無理にトイレに誘うことはせず、子どもの様子を見ながら細かく声かけをしています。0歳児クラスでは、連絡帳に排便の時間を記入し家庭と連絡を取り合っています。トイレトレーニングは家庭との連携を大切にしています。保護者には、3歳児になったときにおむつが取れないとプールに入れなことを説明して、そのうえで個別に保護者と連絡を取りながら、パンツに切り替える時期を決めています。子どもの排泄がうまくできたときや、自分から知らせたときは褒めて、トイレに自分から行きたいと思う気持ちが芽生えるように配慮しています。おもらしをしたときには、子どもの羞恥心に配慮して、ほかの子どもにわからないよう着替えをしています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



子どもの健康に関するマニュアルが作成されています。それに沿って受け入れ時の健康観察を職員が行っています。「看護管理日記」には健康観察で気がついたこと、けがの有無、体調などを記録しています。子どもの体にあるけがや傷については保護者に確認しています。子どもの既往症は入園時の面談で把握しています。そして、日々の保護者との会話などからも把握するように配慮しています。子どもの健康状態はミーティングで職員に周知されています。子どもの体調や気になることは、送迎時に保護者と話をしたりすることでコミュニケーションを取り、家庭での子どもの情報も共有して健康管理に配慮しています。歯磨き指導や手洗い指導は看護師も行っています。

園では内科健診を年2回、歯科健診を年2回、身体測定を月1回実施しています。健診結果は児童票や身体測定の結果に記入し、在園期間の健康の状態が一目で把握できるようになっています。健診結果は保護者に伝えています。健診時には看護師が職員から保護者が子どもの健康について心配していることや、職員が気になっていることを聞き取り、医師に内容を伝えています。そして看護師は医師からの話を職員に伝えて、子どもの健康状態を職員も保護者も把握できるように配慮しています。虫歯予防デーの際に歯科医師が子どもにわかりやすく歯磨き指導を行ったり、日常的には看護師や保育士が子どもの歯磨き指導を行っています。

感染症に関するマニュアルがあります。保護者には入園説明会時に、感染症の登園停止基準や、病後登園にあたり医師の意見書が必要な感染症などの一覧を渡しています。園で感染症が発症した場合には、園内の掲示板にお知らせを掲示して保護者に伝えています。また、園で子どもが発熱したときには、保護者が迎えに来るまで職員が対応しています。職員は、看護師による園内研修で感染症対応について学んでいます。感染症の情報は横浜市などからのファクシミリで得て、全職員に周知しています。保健だよりには感染症などについての情報を掲載し、保護者にも注意を促しています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



衛生管理に関するマニュアルがあり、感染症予防の掃除や消毒の仕方を全職員に周知しています。嘔吐処理は園内研修で看護師から指導を受け、嘔吐処理容器は各クラスや各階ごとに設置されています。すぐに対応できるように職員はポケットにマスクと手袋を常備しています。マニュアルの内容は採用時以外にも、園内研修や、最新の情報を得たタイミングで随時確認し合い、そのつど更新しています。衛生管理については、トイレやシャワー、沐浴槽の清掃手順が定められ、雑巾は使用目的別に分けられ、清掃に関するチェック表で清掃済の確認をしています。職員は、日常でも気がついたときに園内の清潔を保つように心がけています。全園児が食事前に手をアルコールで消毒しています。

評価分類Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



「危機管理防災マニュアル」を作成し、全職員に周知しています。マニュアルには、地震発生時、自然災害、事故発生時、予防対策、事故対応について記載しています。事務室には緊急時の対応の仕方を掲示しています。地震を想定し、保育室には家具転倒防止や飛び出し防止などの対策を講じています。保護者には、重要事項説明書に非常災害時の園の対応について記載して周知しています。また、入園時に「災害時児童引取人届」を提出してもらい、年1回の引き取り訓練を実施しています。消防署などの消火訓練や救急救命講習を受け、全職員が対応できるよう取り組んでいます。事故の際、保護者へ確実に連絡できるよう、複数の連絡先を把握しています。

事故に関する「緊急、安全マニュアル」があります。子どものかかりつけ医院や近隣の医療機関、関係機関の連絡先をまとめ、事務室に用意しすぐに対応できるようにしています。保育中に子どもがけがをしたときには、小さなけがでも保護者に報告しています。けがをした子どもの状況は「看護師日誌」に記載し、職員間で共有するようにしています。受診が必要なけがの場合には、保護者に連絡のうえ、園から通院し「事故報告書」に記載します。事故の状況や原因などについて、ミーティングでも振り返りをして、園全体で再発防止に努めています。

「不審者対応マニュアル」があり、職員に周知しています。玄関扉はオートロックになっており、訪問者はインターフォンで確認のうえ、職員が開錠しています。お迎えの人の写真は入園時に預かり、いつもと違う人が来る場合は保護者からの連絡を得たうえでお迎えの人の身分証明書の写しをとって引き渡しをしています。子どもたちには、散歩に出かける前に、知らない人については行かないことなど、自分の身を守ることを伝えています。不審者が侵入、または周辺を歩いているなどさまざまな状況を想定して訓練を行い、緊急時の脱出経路も職員に周知しています。不審者に関する情報は、保護者や横浜市、金沢区、近隣の警察署から収集しています。緊急時にはボタン一つで警察に通報するシステムがあります。



職員が子どもを呼ぶときは、男の子には「くん」、女の子には「ちゃん」を付けて呼んでいます。小学校での呼称はすべて「さん」で統一されているため、点呼の際にはなじんでもらう意味も含めて「さん」を付けて呼んでいます。園では「ちくちく言葉」という表現を使い、職員が子どもたちの会話のなかで不適切な表現と感じた場合には「ちくちく言葉はやめようね」と声かけするほか、職員同士でも注意し合っています。人を褒めたり嬉しくさせたりする言葉は「ぼかぼか言葉」と名付け、「ぼかぼか言葉で行こうね」と話しています。主任や施設長はミーティングや一対一の話し合いで、子どもの人格を尊重する姿勢の大切さについて話しています。

子どもが一人になりたいときや職員の視線を意識しないで過ごしたいときには、使用していない保育室を利用したり、多目的利用ができるホールを利用したりしています。一対一で話し合う時も同様にしますが、机と椅子でコーナーを作ることもあります。子どもが小集団で過ごす際には、ジョイントマットで場所をくぎって、ブロック遊びをしたり本を読んだりしています。職員は昼のミーティングで子どもの様子を共有し、担当するクラス以外の子どもも見守れる体制を作っています。異年齢で午睡しているため、低年齢の子どもがおねしょをした場合には、職員はほかの子どもが寝ている間に後始末をそっと行い、トイレに連れていきます。

「個人情報保護に関する基本方針」のマニュアルがあり、これに基づき、全職員やボランティア、実習生に個人情報保護や守秘義務について説明し、周知しています。インターネット経由の画像送信システムのガイドラインを作成し、全職員のほか保護者にも周知しています。個人情報の取り扱いに関しては、入園の際に重要事項説明書を使って保護者に説明したうえで、承諾書に署名を求めています。写真掲載などの個人情報の取り扱いについては、別途説明書と同意書の書式があります。また、実習生には誓約書を書いてもらい、法人本部で保管しています。個人情報に関する記録は事務室に保管し、常時施錠しています。規定保管期間を過ぎた記録の廃棄はシュレッダーを使用するか、専門業者に依頼して処理することになっています。

職員たちは性差への先入観や固定観念を持たないように心がけています。子どもたちは毎日、好きな色の服装や靴で登園しています。製作物を作る時の色紙や画用紙は子どもたちの好きな色を選べるようにしています。グループを作る際や、並ぶときの順番は男女別にはしていません。演劇の配役をする際も役の性別にとらわれず、希望する子どもに配役するようにしています。父の日や母の日のイベントは実施しますが、保護者と相談したうえで意向に沿った形で行うようにしています。子どもの家庭の状況や家族構成について、自分の家と違うと感じた子どもが質問してきた場合には、職員は子どもたちに「みんな違っていいんだよ」と説明しています。



園は保護者に対して、入園説明会で「重要事項説明書」に基づいて、運営方針を説明しています。その後のクラス懇談会では保護者からの質問を聞き、説明するなどして理解を深めてもらえるように配慮しています。さらに、入園案内にも運営方針や保育理念、保育への取り組みなどが記載されています。行事ごとにアンケートを実施して、保育方針が保護者に理解されているか把握しています。連絡帳や送迎時の会話など日々の保育の中で保護者とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築き、園の保育方針が理解されるように心がけています。園だよりにはその年のテーマや目標を記載して、園での取り組みやねらいについて保護者に伝えています。

子どもたちの様子を、連絡帳や玄関にあるクラスごとのホワイトボードで伝えています。0歳児は園での食事、睡眠、排便の様子を伝え、保護者とこまやかな連携を取っています。クラスごとのホワイトボードには、一日の全体の様子や園での出来事などを記載して保護者に伝えています。職員は送迎時に、子どもの園での活動内容や健康状態だけではなく、「〇〇ができるようになった」「〇〇のような様子が見られた」などエピソードを伝えるように心がけています。個人面談は保護者からの希望があるときに随時実施しています。2月の保護者会と進級説明会のときにはクラスの写真を保護者に見てもらい、子どもたちの成長の様子を伝えています。

保護者の相談には、いつでも応じています。相談内容によってはプライバシーを考慮して、個別の部屋を利用して対応しています。相談は主に施設長と主任が対応し、基本的に職員2名が同席しています。また相談を受けた職員は、クラスの担当職員に相談したり、施設長や主任にアドバイスを求めたり、内容によっては関係機関のアドバイスを受けたり、職員会議で話し合うこともあります。相談内容は「保護者面談記録」にファイルし、職員には職員会議などで周知して「職員会議議事録」にも記載しています。園では、相談を受けた保護者や、かかわる子どもについても継続して見守る体制を整えています。

食事や行事など園での子どもたちの活動内容を伝えるものとして、「園だより」「給食だより」「保健だより」があります。園だよりは毎月発行し、今月の保育目標や生活、健康について記載しています。また、その中に「クラスだより」があり、毎月のクラスの様子を記載しています。日々の子どもの活動内容は、玄関のホワイトボードに記載し、食育の「クッキング報告書」や行事の様子は写真を掲示して保護者に伝えています。2月の保護者会後の進級説明会では子どもたちの成長の様子を写真を用いて知らせるほかに、新年度の保育内容や目標について話をし、新年度に向けて準備ができるよう情報提供しています。

保護者が参加予定を立てやすいよう年間行事予定表を入園式、進級式のときに配付しています。保護者が参加しやすい土曜日を選んで行事を行うように配慮し、毎月の園だよりも月の予定を載せています。玄関にも開催する行事のお知らせを掲示するなどして保護者に伝えています。保育参観は随時行っています。例えば、園の教育プログラムの特徴でもある「ゴルフアカデミー」の様子を見せてほしいと、お迎えにきた子どもの祖父母から要望があり、受け入れています。子どもの園での様子を見てもらうことは積極的に受け入れています。懇談会などに参加できなかった保護者には、後日個別に内容についていねいに報告しています。

保護者から、園の行事にかかわることなどで、部屋を借りたい、職員の協力がほしいなどの要望があれば、できるだけ応えています。例えば、卒園式に4歳児が5歳児に歌のプレゼントをしたいと、4歳児の保護者から提案があり、職員が歌の伴奏を依頼されたことがあり、職員が手伝いました。保護者には、運動会で保護者競技へ参加してもらったり、「大きくなった会」のお楽しみとしてダンスや劇を披露してもらうなど協力を得ています。子どもの心に寄り添う保育を通じて子どもとの信頼関係を築き、日々の保育の中で保護者とのコミュニケーションを大切にして、保護者一人一人の意向の把握に努めています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



園の保育目標の一つに「地域での活動を通して、気持ちの良い挨拶やかかわりの中できずなを深め、地域に愛される保育園を築いていく」とあるように、園は自園のみでなく地域の子育て支援も園の重要な使命として取り組んでいます。ふだんの散歩や、年2回地域の公園などで行われる金沢区主催の「地域の遊び場」で、地域の親子と触れ合う中で園への要望を聞いています。また、金沢区主催の「商業施設における子育て支援イベント」に参加し、地域の親子と一緒に遊んだり、育児相談などから園への要望を把握しています。さらに、園の見学者からも園に対する要望を聞いています。施設長は金沢区の園長会などで地域の子育て支援ニーズについて話し合い、情報交換しています。

月指導計画や年間指導計画の自己評価や見直しを職員会議などで行う時に、地域の子育て支援ニーズについて話し合っています。園の夏祭りや作品展の時には、近くにある金沢区役所の掲示板に案内ポスターを掲示して地域の方の参加を募り、参加した親子と一緒に園の親子がゲームを楽しんでいます。また、専任講師によるインターナショナル保育(英語)や体育、ゴルフなど園の教育プログラムの見学や参加をしています。日常で地域の公園に散歩に出かけた時には、公園に来ている地域の子どもと一緒に遊んでいます。また、金沢区主催の商業施設での出張保育イベントでは、親子の手遊びを教えたり、育児相談に応じています。

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能



入園案内を金沢区こども家庭支援課に置かせてもらい、関心のある方がいつでも参照できるようにしています。園の夏祭りや運動会などのポスターを、金沢区役所の掲示板に貼らせてもらっています。金沢区の保育園や幼稚園などを紹介する子育て情報誌「キラキラMAP」には、園の案内とともに育児相談を実施していることを記載しています。地域の商業施設における出張イベントに参加したときには参加者に園の場所や行事を案内したり、園行事に町会長や元町会長を招待して町内の方々にも伝えてもらっています。また、園のホームページを通して、地域の方に園の情報を提供しています。

育児相談の内容によっては園だけでは解決できないこともありますので、園の委託医や病院、金沢区こども家庭支援課、金沢区福祉保健センター、横浜市南部地域療育センター、横浜市南部児童相談所、横浜市こども青少年局、消防署、警察署など、関係機関の電話番号一覧を事務室の電話のそばに置き、すぐに連絡が取れるようにし、職員にも周知しています。関係機関との連携担当者は主任か施設長で、園運営に関して金沢区こども家庭支援課と日ごろから連携しています。横浜市南部地域療育センターには、配慮を必要とする子どもの様子を見てもらい、対応について指導や助言を得ています。消防署の出張所長の来訪を得て防災訓練や救急救命訓練の指導、助言を受けたりして、日ごろから関係機関との連携ができています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



夏祭りや運動会、作品展など園の行事に、金沢区役所の掲示板にポスターを掲示して地域の方を招待しています。町内会の祭りや自治会の防災訓練に、土曜保育の3～5歳児が園代表で参加して交流しています。七夕の時期には元町会長から毎年多くの笹をもらっています。幼保小連携の交流にも積極的に参加し、金沢区主催の「キラキラスポーツフェスティバル」などに5歳児が参加し交流しています。地域の小学校を5歳児が訪問し、1年生と一緒にチューリップの球根を植えたり、遊んだりしています。商業施設における子育てイベントなどでは園からおもちゃや絵本を貸し出しています。勤労感謝の日には、子どもたち手作りの感謝状を牛乳屋、魚屋、肉屋、消防署、警察署に持参し、日ごろの感謝の気持ちを伝えています。

園は、近隣の数か所の公園を散歩に利用しています。大型遊具や鬼ごっこで遊んだり、樹木のある公園でどんぐりを拾ったり、虫を観察したり、花壇の花を觀賞したりしています。海に注ぐ川の両岸は桜並木の散歩道です。5歳児は金沢自然公園や金沢動物園、八景島シーパラダイスにも散歩で行きます。園の運動会は近くの小学校の校庭を利用しています。散歩の時などに会える地域の方に子どもたちは元気よく挨拶して交流しています。幼保小連携では、5歳児が近隣の保育園の子どもと公園で一緒に遊んだり、5歳児が小学校を訪問して1年生と交流したりしています。地域の寺の花祭りに子どもたちが参加したり、町内の祭りの際は、職員は保護者に祭りの案内をしたり、土曜保育の子どもたちが参加したりしています。

評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供



金沢区こども家庭支援課に「入園案内」を置かせてもらい、将来の利用者が自由に見ることができるようにしています。入園案内には所在地や年齢別定員、職員体制、開園閉園時間などの保育園概要や施設概要、運営基本方針や保育理念、費用のほか、園の教育プログラムである専任講師による体育指導やインターナショナル保育（英語）、ゴルフアカデミーを写真付きで案内しています。園のホームページには入園案内の内容のほか、保育や食育、給食などの様子を載せています。園の情報は金沢区や横浜市こども青少年局のホームページ「ヨコハマはぴねすぽっと」に進んで提供しています。また、金沢区の子育て情報誌「キラキラMAP」にも園の案内が載っています。

利用希望者からの問い合わせには、入園案内や重要事項説明書に基づいて、施設長や主任が常時対応しています。見学は、専任講師による体育、英語、ゴルフの教育プログラムのある日時を勧めています。都合がつかない場合には、保育に支障を来さない範囲で見学者の希望に応じています。見学者には子どもと一緒に来園してもらい、入園案内を渡し、施設長や主任が園の理念や基本方針、利用条件などを説明して園内を案内するとともに、質問にもていねいに応じています。また、園の子どもたちとも一緒に遊び、楽しさを感じてもらっています。園の行事への参加も勧めています。

評価分類Ⅳ－3 実習・ボランティアの受け入れ



ボランティアの受け入れは、「ボランティア受け入れ規定」に基づいて行っています。園は地域の小学校や中学校からの職業体験を受け入れてきました。ボランティアの担当者は主任と施設長で、受け入れ前に職員に伝え、マニュアルで学ぶとともに、保護者にも、どのようなボランティアが入るのか玄関に掲示して事前に知らせています。ボランティアには入園案内を渡してオリエンテーションを行い、子どもの人権の尊重やプライバシー保護、守秘義務、保育の留意事項などを説明します。ボランティアが入ったクラスのクラスリーダーが指導にあたり、終了後に感想文の提出を受けています。参考になる意見は園の運営に生かすようにしています。

実習生の受け入れは「実習マニュアル」に基づいて行っています。保育の専門学校や短大から実習の申し出が法人本部にあり、積極的に受け入れています。職員や保護者には事前に、園だよりや玄関の掲示でどのような学校からだれが来るのか伝えていきます。実習の担当者は主任と施設長で、指導は実習に入った各クラスのリーダーが担当しています。事前にオリエンテーションを行い、保育理念、方針、目標、個人情報保護、保育の留意事などをていねいに説明しています。守秘義務に関する誓約書は、法人本部で受け入れ保管しています。実習目的と本人の希望を勘案し、実習プログラムを工夫しています。職員は、意見交換を通じて交流し、保育士のすばらしさが伝わるよう努めています。

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類 V-1 職員の人材育成



法人本部の理解もあり、現場が運営しやすいように十分な人材を配置しています。施設長は毎年11月末から12月前半にかけて全職員と面談して、来年度の勤務継続の可否、担当クラスの希望、系列園への転勤希望、職務の満足度、悩みなどを聞いています。結果は本部に報告し、採用は本部に依頼しますが、園からも募集を発信しています。「マミーズエンジェルの想い」「社是」「私たちの理念」「保育指針」に沿って、主任と施設長は、外部研修リストや法人主催の研修から園の研修計画を立てています。また職員個々に年間目標を定め、年を3期に分けた期ごとに、達成度の自己評価を行っています。

職員は年間3つ以上の外部研修受講を目標にして、横浜市や金沢区の研修や、法人主催の研修などから希望を募り、研修担当の主任が取りまとめて職員一人一人の研修計画と全体の研修計画を策定しています。職務上有益な研修は園から指名して受講してもらうこともあります。外部研修受講者は、受講後2日以内に研修報告を提出し、研修成果を生かすために1週間以内に園内研修を行います。園内研修で研修内容を発表して、職員間で内容の共有を図るとともに、研修内容を日常保育に生かせるよう取り組んでいます。研修発表に参加できなかった職員には研修報告を回覧し、主任が確認しています。園内研修は感染症対応や日々の保育に役立つテーマでも開催して、確認や保育技術の向上を図っています。主任と施設長は、研修内容の保育への活用状況などから研修を評価し、次の研修に生かしています。

入職時に非常勤を含む全職員に「マミーズエンジェルの想い」「社是」「私たちの理念」「保育指針」を記載したカードを配付し、毎日昼のミーティングで唱和して、保育に際して職員同士の心が一つに結ばれるよう努めています。業務マニュアルは全職員が園内研修などで学んでいます。主任は、業務の経験や熟練度を考慮して、常勤職員と非常勤職員を組み合わせさせたシフト表を作成しています。非常勤職員にも必要な園内研修は参加できるように配慮したり、会議や研修に参加できなかった場合でも研修報告や議事録を主任が回覧し、研修内容などを共有しています。非常勤職員の担当は主任で、日ごろからミーティングなどで職員全員の情報を共有し、コミュニケーションを図っています。

評価分類 V-2 職員の技術の向上



職員は年度初めに年間目標を定め、課題や対策を検討して取り組み、4～6月、7～10月、11～3月の期ごとに自己評価を作成します。これを基に乳児クラス、幼児クラス、栄養士(調理室)のグループごとに、期ごとの自己評価を作成して、主任と施設長が評価、面談、指導を行います。さらに毎期社長が一人一人の自己評価にコメントを付記し、社員総会で総括を行う仕組みがあります。工夫改善事例として、保護者会を開催しましたが参加者が少なかったため、参加しやすいように、親子一緒にふれあい会(親子遊びや親子クッキングなど)と組み合わせると同じ日に催したところ、参加者の大幅増加をみました。教育プログラムとして週1回英語、体育、ゴルフがあり、専任講師による指導を受けています。

職員一人一人の自己評価は書式が定型化されています。年を3期に分け、期ごとに年度初めの目標と関連付けて、達成、反省、課題、総評の項目を順に記入し作成しています。保育の自己評価は年間指導計画、月指導計画、個別指導計画、週案・日誌などにより、クラスごとに自己評価を行っています。保育の自己評価は例えば5歳児の週案・日誌では「今週から年少児の午睡の手伝いも始まり、給食当番や行事などどれに対してもとても意欲的な姿が見られた」とあるように、活動の結果だけでなく、その取り組む意欲や過程を重視して行っています。社長をはじめ法人本部が一人一人の個性を大切にして評価を行うことで、職員も意欲を持ち、自身の実践の改善につなげています。

職員個人の自己評価を基に乳児、幼児、調理室の各グループで話し合い、グループごとの自己評価を作成しています。そして個人の自己評価と各グループの自己評価を含めて、主任と施設長で話し合い園全体の自己評価を作成しています。期ごとの自己評価の3期目、最終の園全体の自己評価を、年度の園の自己評価としています。園の自己評価は職員会議などで説明し、園の理念や方針に沿っていることを職員間で確認しています。園の自己評価は玄関の公表用ファイルに入れて、保護者に公表しています。

評価分類Ⅴ－3 職員のモチベーションの維持



業務分担表には施設長、主任、リーダー、中堅保育士、保育士、栄養士、看護師という職位ごとに、経験やスキルの習熟度に応じた役割を明文化しています。日常の業務はできるだけ職員の自由裁量に任せていますが、けがや事故、苦情、経営に関する事などは速やかに主任や施設長に報告、連絡、相談することを徹底しています。また、各行事の担当者は行事の2か月前に企画書や計画書を法人本部に提出しています。職員の協力を得て行事をやり遂げることで担当者は達成感を得て、自身の成長につなげています。行事ごとの保護者アンケートや職員の自己評価を次回につなげています。施設長は期ごとの職員の自己評価の時などに職員と面談して、職務への満足度や要望、悩みなどを聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任



職員は入職時に、法人本部職員や施設長、主任から、就業規則の服務規律として人権の尊重や守秘義務など守るべき法や規範、倫理などの説明を受け、守秘義務に関する誓約書を提出しています。年3回行われる社員総会では、社長より、マミーズエンジェルの想い、社是、理念、保育指針や法人の運営状況、今後の運営などについて話を聞いています。また、法令順守についても社長や外部講師による法人主催の研修で学んでいます。園の運営状況は「決算報告を知りたい方はお知らせください」と事務室前の玄関に掲示して、いつでも閲覧できるように公開しています。世間で起こった虐待などの事例には、新聞記事などを基に速やかにミーティングを行い、注意喚起して早期発見や対応手順を確認しています。

ごみが出ないよう物を大切に使用し、出たごみは分別管理したり、牛乳パックやペットボトル、ティッシュペーパーの空き箱、新聞紙、段ボールなどの廃材を工作材料にしたりして、3R(Reduce減らす、Reuse繰り返し使う、Recycle再資源化する)に取り組んでいます。5歳児は食育計画で園庭のプランターにトマトやナス、ピーマン、きゅうりなどを育て緑化に取り組んでいます。省エネルギーでは、照明のLED化の推進や不要箇所の速やかな消灯、エアコン使用の適正管理などに努めています。電気のスイッチの箇所には「節電しましょう」、保育室やトイレの手洗い場には「お水を大切にしましょう」のシールが貼られていて、環境保護活動に園全体で取り組んでいます。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



職員は入職時に、マミーズエンジェルの想い、社是、私たちの理念、保育指針が記載されたカードを配付されています。職員は毎日昼のミーティングの時にカード内容を唱和しています。施設長は「どのような社長の思いで園ができたのか」「子どもたちを第一に考え、子どもの目線で真心をもって保育にあたること」「社長、本部、系列園の仲間と心を合わせて保育を行うこと」の大切さを職員に説いています。職員は社員総会で社長からの言葉を直接聞き、理解を深めています。施設長は、年3回の自己評価と秋の翌年度の勤務の意向聴取の面談時に、職員が保育理念や方針を理解して勤務にあたってきたか確認しています。

年に2回保護者代表も参加する運営委員会を開き、運営状況を説明したり、保護者代表から意見を聞いたり、今後の運営について話をしています。来年度の保育所保育指針の改定も話題にしています。保護者の行事アンケートで、クリスマス会は参観者が多く後ろから見えないという意見があったことから、2部制で行うことに変更して、保護者には園だよりや口頭などで理由を説明し了承を得ました。園では行事ごとに職員の担当責任者制をとっていますが、運動会や夏祭り、クリスマス会、大きくなった会(発表会)などの大きな行事では、調理室などの職員も担当を持ち園をあげて取り組んでいます。

スーパーバイザーとしての主任クラスを育成するため、該当の職員を、法人や横浜市、金沢区の中堅研修やリーダー研修、主任研修などに派遣しています。主任は担当クラスを持たず、毎日のシフト管理で職員の勤務状況を把握し、朝、昼のミーティングなどで報告を聞き、的確なアドバイスをしています。日誌や週案など指導計画を確認して、赤ペンで助言や指導文言を記入しています。主任は各クラスを回って、職員の保育の様子や子どもの様子を見て回り、必要に応じて指導しています。また、具合のすぐれない職員には声をかけ、理由を聞き、施設長に報告して、休憩や病院に行かせるなど必要な対応をとっています。主任は職員間の連携を大切にしながら気軽に話し合い、何事も施設長に報告、連絡、相談をしています。

評価分類VI-3 効率的な運営



事業運営に影響のある地域の子どもの数の実体や、待機児童の動向などの情報は、金沢区こども家庭支援課などから得ています。また、地域の情報は金沢区の園長会に出席して区の職員や園長同士の会話などから収集し分析しています。また系列15園の施設長がそろって毎月の法人本部での施設長会議では、事業運営の話や法令の改正などの話があり、園の重要課題として職員会議などで話し合っています。保育所保育指針の改定については横浜市の研修に参加し、研修後の園内研修などで職員全員で学んでいます。また、改定に沿った改善課題を職員に周知し、園全体で取り組もうとしています。

中長期計画は法人として作成しています。中長期計画は近い将来の社会情勢の変化、保育行政の変化などを考慮して作成しています。次代の健全な組織運営のために園は法人による社内監査を受けています。また、専任講師によるインターナショナル保育(英語)や体育指導、ゴルフアカデミーを取り入れています。次代の後継者育成のために、現在の自己評価のシステムのほか、主任やリーダーなどの役職ごとに社長や外部講師による法人主催の研修を行い、職員のさらなる知識と質の向上に努めています。園の運営に関しては法人の税理士の指導や助言を受けています。

利用者本人調査

結果の特徴

調査方法

第1日目、第2日目の午前遊び、昼食、午睡の状況などを中心に、観察調査を実施しました。また、幼児とは会話の中で 適宜聞き取り調査を実施しました。

【0歳児】

インターナショナル保育の時間です。講師から英語で挨拶されると、子どもたちも元気に挨拶を返しています。音楽に合わせて止まったり、歩いたり、指示はすべて英語です。講師がジェスチャーを交えて天気絵をさすと、0歳児も「sunny！」と元気に答えています。保育士は「〇〇ちゃん上手」と声をかけています。子どもたちも保育士のほうを見てニコニコ顔です。食事の時間の前、保育士は子どもたちに「手を洗います、ゴシゴシ、キュッキュッ、手を拭きます」と手洗いの様子を見せています。子どもたちには、「おててパー、アルコールでシュッするね」と言って手の消毒をしています。食事が始まると、子どもたちの様子を見ながら「〇〇ちゃん、おいしい？」「スプーンで持つとかっこいいね」など、子どもたちの食事の意欲が増すような言葉かけをしています。子どもがスプーンを保育士に出すと「これ、やってほしいの？」と子どもに聞いて食事の介助をしています。排泄は、活動の切り替え時や、子どもの様子を見ながら声をかけています。おむつを取り替えるときにも、「ウンチツチだから、きれきれね」「しゅるしゅる～」など子どもが楽しくなるような言葉かけや、歌をうたうなどして排泄の介助をしています。子どもたちも午睡前のおむつ替えと着替えの時は、脱いだものを袋に入れて自分のロッカーにお片付けをしていました。保育士は子どもとのスキンシップを大切にしています。そして、子どもは保育士のそばにいと安心して、落ち着いて遊び、保育士と子どもの信頼関係が築かれている様子が見られました。

【1歳児】

1歳児も0歳児と一緒にインターナショナル保育を実施していました。1歳児は0歳児よりもはっきりと言葉をお話せる分だけ、英語での受け答えも元気いっぱい、音楽に合わせて歩く時は友達と手をつないで楽しそうです。食事は1、2歳児が一緒の部屋でしています。保育士の「おててはお膝」の声に子どもたちは手を膝に置き、行儀良く待っています。「いただきます」をして食事が始まりました。保育士は、子どもが上手に食具を使って食事ができたり、頑張っている様子を見ると「〇〇ちゃん、すごいね、頑張って食べてるね」と褒め言葉をかけています。子どもたちの食べ方を見て「ごはんも食べようね」「スープも飲みましょうね」「じゅんぱんこに食べようね」と食べ方が偏らないように声をかけていますが、無理に食べさせるような言葉かけはしていません。子どもたちはごはんやおかずをきれいに食べて「ピカピカになった」と調査員に食器を見せてくれました。午睡の前に本の読み聞かせをしています。保育士が読んでいる本は文章の最後に「どうする？」という言葉がつくものでした。その部分になると一緒に子どもたちも「どうする？」と言ったり、集中して話を聞いています。そして、次のお話をしようと保育士が新しい本を「これは？」と聞くと「いやあー」と笑いながら答えていました。1歳児は「〇〇したい」という気持ちをはっきりと言っていました。保育士はその言葉を否定的にとらえるのではなく「じゃあ、〇〇はどうか」と、子どもの気持ちに寄り添った言葉かけをしている様子が見られました。

【2歳児】

多目的ホールにピアノの音が鳴り響きます。音に合わせて2歳児と4歳児が一列で入場してきます。壁側に並ぶと、抱えてきた防災頭巾を座布団代わりにして座ります。「おはようございます、リトミックを始めます」保育士の声に、子どもたちは大きな声で「よろしくお願いします！」と返事をします。「2歳さん立ちましょう」の声かけで子どもたちは立ち上がり、ホールの中央に散らばります。「うさぎ」の前奏曲に合わせて両手を広げてぴよんぴよん体操です。ぴよんぴよん跳び上がりながら、上げた両手を振ります。体ならしをしたあとは、「うさぎとかめ」の曲に合わせてうつ伏せ、両手で両足を持って亀の格好になります。音楽に合わせて体を揺らします。1番が終わったら体を伸ばしてゴロゴロ。3番ではうつ伏せになり、頭を上を持ち上げて、頭に両足を当てて逆ブリッジのような姿勢になっています。曲が終わりました。「どうもありがとう」と挨拶をして、待機する位置の座布団のところに戻ります。4歳児の「おうまのおやこ」の後は2歳児たちの番です。保育士の「たんたん」というリズムに合わせて、馬の形で四つんばいになって歩きます。前の子どものお尻に頭をぶつけながら歩いている子どももいます。2番目では、立った姿勢で少しスピードアップ。歩き走ったりスキップしたりして走っています。「とんぼのめがね」を踊り、わらべ歌の「なべなべ底抜け」を歌いながら、全員が手をつなぎ、保育士の腕のわきから手をつないで抜け出したり、戻ったり。みんな楽しそうでした。

【3歳児】

専任講師によるスナッグゴルフの時間です。子どもたちは3列になって座っています。先頭の子どもの足元にはランチパッド(スナッグゴルフ用のティーパッド)、ランチャー(ゴルフパター)、スナッグボール(野球のボールより少し小さいサイズのボール)3個が置かれています。「みなさん、気をつけ」講師が声をかけると、みんな立ち上がります。「これからスナッグゴルフを始めます」「よろしくお願ひします」元気に挨拶を返します。「お名前お願ひします」3人の子もたちが自分の名前を名乗ります。「よろしくお願ひします」と挨拶をすると練習の始まりです。講師は子どもの姿勢を直しながら教えています。ランチパッドを使ったスイング練習を終えた後、「1、2、3」のかけ声とともに子どもがスイングしました。ボールにうまく当たりました。「そう、うまい！」保育士が声をかけます。「ナイスショット！」と講師。子どもたちは両手でランチャーを握り、ボールを見つめてからスイングします。うまく当たると、スナッグボード(命中するとボールがくっつく三角形の柱)にくっきます。ほかの子もたちが歓声を上げます。スイングできました。バシッと音して、転がったボールがスナッグボードにくっきました。「やった！」子どもは両手を上げて大喜びです。2回目のスイング。バシッ。「いった、いった！」保育士が声を上げて褒めます。3球目はコロコロ転がって、部屋の隅へ。「ご挨拶しましょう」と、講師。「ありがとうございました」元気に挨拶と会釈をしてプレーが終わりました。

【4歳児】

4歳児と5歳児の保育室の間の仕切りを折りたたんで、部屋を広くします。3~5歳児が3つのテーブルに混合で座り、当番の「いただきます」の声に唱和して給食が始まりました。保育室にはモーツァルトのクラシック音楽が低音で流れています。献立はごはん、すき焼き風煮、水菜のサラダ、味噌汁です。「お正月はお年玉もらった」「ぼくももらった」「私はメダルもらった。絵本も買ってもらった」ごはんをパクリと口に入れて「ぼくはカレーライスが好きだよ」「ハヤシライスやオムライスも好きだよ」別の子もが応じます。「新幹線乗ったよ、おじいちゃんの家に行くときに」「きょう、お庭で雪だるま作ったよ」と5歳児。話が次々と変わる中で、子どもたちは手を休めることなく給食を楽しんでいました。

翌日雪がほとんど解けた園庭で大縄跳びが始まっていました。保育士が縄の片方を園庭を囲む金網に結んで大きく回しています。保育士が「走って、ジャンプ、抜一けー」と、回す縄に入るタイミングを子どもごとに声を出して言っています。順番待ちと終わった子どもたちは「頑張れ、頑張れ」と声援を送っています。走り抜けて跳べなかった子どもが「悔しい」と言いながら、何度も挑戦しています。「〇〇ちゃん、今日初めてできたね」「今日跳べたお友達が増えました。もう少しのお友達も増えました。また頑張りましょう」大縄跳びが終わりました。

【5歳児】

まだ公園が昨日の雪でどこも乾いていないので、3歳児と5歳児と一緒に近くの川岸の散歩です。玄関には、昨日5歳児が園庭で雪だるまを作ったり、雪合戦をしたことが書かれたホワイトボードがありました。園は駅近くのビルで、園の前が歩道と駅方面からの車道です。保育士が人数を確認して、間を空けないように注意して、手をつないで出発です。交差点で手をしっかり上げて横断歩道を渡ります。渡って間もなくすると、コンクリートの歩道がついた川岸です。5歳児は肩から下げたカバンに「ふゆのずかん」を持参しています。向こうから来る近所の方々に元気よく「おはようございます」と挨拶しています。「いつもは、お魚がいるんだよ、えいがいるよ、さめの子もいるよ」子どもが話してくれます。保育士が「海が近いからでしょう。水鳥や鯉、亀がいるんですよ」と教えてくれました。川の両岸は桜並木で、両岸から桜の枝が川にかぶさるように垂れ下がり、咲くと見事な景観だそうです。「あ、氷が流れてる」「雪の氷だ」「お魚みたい」次々に子ども同士で話しています。長いベンチの所で小休止です。水分がほしい子どもは、お茶を飲んでいきます。「あ、どんぐり見つけた」雪の残った所を踏んで「ザクザク音がする」と言ったり、図鑑を広げる子どももいます。休憩を終え点呼をして、橋を渡り、反対の川岸から戻ります。川沿いに花壇のある遊歩道です。水仙、三色すみれ、ばら、さざんか、魚は見えませんでした。きらきら日に輝く川面を見ながら、子どもたちは「楽しかった」と園に戻りました。

利用者家族アンケート

結果の特徴

（実施期間：平成 29年 10月 30日 ～ 平成 29年 11月 13日）

送付方法・・・園を通して保護者へ配付

回収方法・・・評価機関宛に保護者より直接郵送

送付対象世帯数： 56 回収数： 33 回収率： 58.9%

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が21人（63.6%）、「満足」が12人（36.4%）で「満足」以上の回答は合計33人（100%）でした。

自由意見には、「子どもの状況を職員が共有していて安心感がある」「先生たちはみな明るい」「階段壁や教室に子どもの作品を季節に合わせて飾り付け、すばらしい」「一人一人の個性を大切に接してくれる」「職員が親身になって保育をしてくれている」「先生がきちんとしゃべってくれる」「英語、体育、ゴルフなどプログラムが充実」「園内がきれいで清潔」「カメラで保育の様子がわかる」など、感謝と好意的な意見が数多くありました。

項目別に見ますと、とても満足度が高い項目として、「問4生活③ 基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては」「問7① あなたのお子さんが大切にされているかについては」ほか3項目で、それぞれ100%の保護者が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しています。「問2③ 園の目標や方針についての説明」はほかの項目に比較するとやや満足度が低い項目です。

結果の詳細

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらかといえばいい	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	15.2%	48.5%	21.2%	12.1%	0.0%	3.0%

問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち
付問1

保育目標や保育方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらかといえばいい	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①見学の受け入れについては	63.6%	18.2%	0.0%	0.0%	18.2%	0.0%
	その他： 「きょうだいを通っていたため」などのコメントがありました。					
②入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57.6%	36.4%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%
	その他： 「見学してません」などのコメントがありました。					
③園の目標や方針についての説明には	45.5%	51.5%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他： 「覚えていない」というコメントがありました。					
④入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	48.5%	48.5%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他： 「そのようなことはなかったと思います。ほかの保育園ではあると聞くので、ここはないのかと不思議でした」というコメントがありました。					
⑤保育園での1日の過ごし方についての説明には	42.4%	51.5%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他： 「5歳児クラスになったら午睡は自由にして、文字や数字など勉強時間になればと思います」というコメントがありました。					
⑥費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	39.4%	42.4%	12.1%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他： 「不満ではないのですが、夕食代など発注する費用についての説明書きか、規則などの開示があればよいか」というコメントがありました。					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①年間の保育や行事についての説明には	51.5%	36.4%	12.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	39.4%	48.5%	6.1%	0.0%	6.1%	0.0%
	その他: 「よくわからない」などのコメントがありました。					

問4 保育園に関する年間の計画について

遊びについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	54.5%	39.4%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②子どもが戸外遊びを十分しているかについては	39.4%	21.2%	27.3%	6.1%	6.1%	0.0%
	その他: 「いつもどのくらいの時間、園外に遊びに行っているのか把握できていないため、もう少し外で遊んでもよいような気がします」などのコメントがありました。					
③園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	60.6%	30.3%	6.1%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「状況を把握していないため」というコメントがありました。					
④自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	42.4%	36.4%	15.2%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「園外活動ではどのような事を行っているのかあまり把握できていないため」というコメントがありました。					
⑤遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	69.7%	30.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑥遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.5%	42.4%	0.0%	3.0%	6.1%	0.0%
	その他: 「取り組みがされているのかよくわからないため」などのコメントがありました。					

生活について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①給食の献立内容については	69.7%	27.3%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.8%	18.2%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「アレルギー食の提供について気になることがある」というコメントがありました。					
③基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
④昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	57.6%	30.3%	6.1%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「5歳児クラスになったら午睡は自由にして、文字や数字など勉強時間になればと思います」というコメントがありました。					
⑤おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	45.5%	36.4%	6.1%	0.0%	12.1%	0.0%
	その他: 「まだおむつはずしの時期ではない」などのコメントがありました。					
⑥お子さんの体調への気配りについては	69.7%	30.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑦保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	57.6%	33.3%	6.1%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「けがをしたことがない」というコメントがありました。					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①施設設備については	51.5%	36.4%	3.0%	6.1%	3.0%	0.0%
	その他： 「園庭がせますぎる」というコメントがありました。					
②お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	69.7%	24.2%	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%
	その他：					
③外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	36.4%	42.4%	15.2%	0.0%	6.1%	0.0%
	その他： 「詳しくわからない」などのコメントがありました。					
④感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	36.4%	51.5%	6.1%	3.0%	3.0%	0.0%
	その他： ※コメントはありませんでした。					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	24.2%	48.5%	6.1%	9.1%	12.1%	0.0%
	その他： 「特に個別面談がない」などのコメントがありました。					
②園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	66.7%	12.1%	12.1%	6.1%	3.0%	0.0%
	その他： 「行事についての情報提供が遅くて、いつも準備にとまどう」というコメントがありました。					
③園の行事の開催日や時間帯への配慮については	75.8%	15.2%	0.0%	3.0%	3.0%	3.0%
	その他： 「要望が受け入れられない」というコメントがありました。					
④送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	33.3%	51.5%	12.1%	3.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑤お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	51.5%	39.4%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他：					
⑥保護者からの相談事への対応には	54.5%	39.4%	3.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他： ※コメントはありませんでした。					
⑦開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	60.6%	30.3%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%
	その他： 「同じ時間でしか利用していない」などのコメントがありました。					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
①あなたのお子さんが大切にされているかについては	78.8%	21.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
②あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	81.8%	15.2%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%
	その他: 「早く保育園に行きたいと楽しそうに出ることがない」というコメントがありました。					
③アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	48.5%	30.3%	0.0%	3.0%	18.2%	0.0%
	その他: 「アレルギーや障がいのある方がいるのかわからない」などのコメントがありました。					
④話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	69.7%	30.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
⑤意見や要望への対応については	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%

事業者からの意見

この度は、第三者評価を受けさせて頂きましてありがとうございました。

開園して5年目を迎え初めて受けさせて頂きました。日々、子ども達の為にマミーズエンジェルの想い、社是を念頭に保育指針・理念に沿って一人一人の子ども達の個性を大切に真心を込めて保育をすることを法人である社長と共に本部、15園の施設みんなで行ってきましたが、受けることで初心に戻り今までの保育の見直しができ、より良い所はさらなる質の向上へ繋げていきたいと思えます。

特に園独自の教育プログラムは、好評をいただきました。そこには、挨拶、ルール、約束を守る、物を大切に使用することや専任講師から週1度のペースで指導いただける素晴らしさがあります。他にもたくさんの特徴がありますので今後は保育参観等で見学する機会など工夫をしていきたいと思えます。

職員にとっても再度、保育の見直しを確認させて頂いたことやアンケートなども名前の記載なしにすることでより皆様のご意見を頂けるよう改善もさせて頂きました。

今後はさらに質の向上や職員一同、たいせつなお子様を預けてくださっていることに感謝をしながら子ども達と共に成長していきたいと思えます。

ありがとうございました。